

平成 28 年度 第 1 回練馬区立生涯学習センター運営懇談会 会議録（概要）

- 1 日時 平成 28 年 8 月 26 日（金） 午後 3 時～4 時 55 分
- 2 場所 生涯学習センター 第 1 教室
- 3 出席者 井藤委員、川井委員、中島委員、岡本委員、長富委員、田村委員、小山委員
奥本委員、尼子委員、押田委員（練馬区教育委員会事務局社会教育主事）
（練馬区）文化・生涯学習課長
（事務局）生涯学習センター所長、副所長、主事
- 4 欠席者 漆澤委員、小澤委員
- 5 傍聴者 1 名
- 6 次第
 - (1) 文化・生涯学習課長あいさつ
 - (2) 委員紹介
 - (3) 文化・生涯学習課事務局職員紹介
 - (4) 正副座長選出
 - (5) 議題
平成 27 年度事業結果報告について
平成 28 年度事業結果報告（4 月～7 月）および事業予定について
 - (6) その他
- 7 配布資料
 - 資料 1 平成 28 年・29 年度練馬区立生涯学習センター運営懇談会委員名簿
 - 資料 2 平成 27 年度事業結果報告
 - 資料 3 平成 27 年度施設利用実績
 - 資料 4 平成 28 年度事業結果中間報告および事業予定
 - 参考資料 これからの生涯学習センターについて

8 会議の概要

(1) 文化・生涯学習課長挨拶

小金井靖文化・生涯学習課長挨拶

(2) 委員紹介

委員自己紹介

(3) 文化・生涯学習課事務局職員紹介

職員紹介

(4) 正副座長選出

<所長> 生涯学習センター運営懇談会の趣旨等については、事前に資料をお送りし、ご確認いただいていることと思うので、改めてのご説明は省略する。

続いて次第(4)正副座長の選出に移る。運営懇談会設置要綱第3条第2項に「座長は委員の互選により選出する」という規定がある。どなたかご推薦をお願いします。

<委員> 前回もお願いした川井先生が、いろいろな流れもご存じなので、お願いしたいと思うがいかがか。

(拍手)

<所長> それでは拍手をいただいたので、川井委員に生涯学習センター運営懇談会座長をお願いしたいと思う。

次に運営懇談会設置要綱第3条第2項の規定により、副座長は座長が指名することになっているので、委員の中からお一人副座長をご指名いただきたいと思う。

<座長> この会は、練馬区72万人の生涯学習の拠点である生涯学習センターの運営懇談会であるので、大変荷が重いと感じている。今までも良い意見をいただいた岡本委員に副座長をお願いできれば有り難いと思うがいかがか。

(拍手)

<所長> 岡本委員、副座長ということでよろしくをお願いします。それでは座長、副座長が決まったので、お二人から一言ずつ就任のご挨拶をお願いしたいと思う。

<座長> 高齢化社会に向かって生涯学習はとても大切であり重要になってくる。本

日お集まりいただいた委員の方は、いろいろなところでご活躍されている方。今後とも皆さんのお力をいただきながら頑張りたい。よろしく願います。

<副座長> 座長から、とても重い懇談会である、というお話があり、責任の重さを感じている。座長の補佐として、精一杯頑張っていきたいと思う。皆さんのご協力よろしく願います。

<所長> それでは正副座長が決まったので、今後の議事進行については座長に願います。

(5) 議題

<座長> それでは、議事に入る前に、本日の出席委員数の報告を事務局から願います。

<副所長> 本日の出席者数は10名。なお、漆澤委員、小澤委員から所用により欠席の連絡を受けている。また、本日は、傍聴の方が1名来られている。

<座長> 議事に入りたいと思う。事務局から資料に沿って説明を願います。

平成27年度事業結果報告

所長より資料2に基づき説明

平成27年度施設利用実績

所長より資料3に基づき説明

平成28年度事業結果中間報告および事業予定について

所長より資料4に基づき説明

() についての意見、質問等)

<座長> この運営懇談会は年2回の開催。そのうちの貴重な1回なので、ぜひ委員お一人ずつご意見を頂戴したい。

<委員> 毎年同じような説明だと思う。その中で教室の利用実績の減少が一番気になる。1時間でも利用できるようにして利用機会が増えるようにしたと思うが、実際に1時間の利用は増えているのか。また、午前・午後・夜間の枠貸しのときは利用

時間前に鍵をスムーズに受け取れたが、今は、鍵の受け渡しの時間が厳密になり、利用者側からは逆に不便になっている部分があると感じる。その点について説明をお願いします。

<所長> まず毎年同じような説明というご指摘だが、いろいろ課題も出てきているので、考えていかなければいけないと感じている。この点については、次第6のその他の中で説明する。

施設の利用実績について、1時間利用の件数等の統計は、まだ出していないが、少しずつ増えてきていると感じている。1時間貸しに伴い、鍵の受け渡しは貸出時間ちょうどということでご協力をお願いしている。準備のために早めに鍵を受取りたいというご意見はあるが、準備の時間が必要な場合は、枠と枠の間の1時間の貸出も可能である旨説明している。1時間利用を上手に使っていただき、有効に教室を利用していただきたい。

<委員> 今年の2月に「郷土芸能ねりま座公演」というのがあった。各地区のお囃子連の公演で地味な催しかと思ったが、見に行ったら満員だった。とても印象に残ったので質問する。このねりま座公演が資料に入っていないのはどうしてなのか。郷土芸能を保存・伝承するのは、生涯学習センターの期待されている一つの大きな機能だと思う。担当は、別のセクションなのか。

<所長> 同じ文化・生涯学習課に伝統文化係という係がある。そこが、ねりま座の事業を担当している。

<委員> 生涯学習センターで、日本の伝統文化などの事業記録を保存しておく必要があるのではないか。

<所長> 以前、練馬公民館の時にねりま座を担当していたが、今は、伝統文化係が伝統文化や文化財の保存などを担当している。伝統文化係と生涯学習センターは同じ課の組織として協力しあって事業を行っている。

<委員> 生涯学習センターの主催事業でないので、資料に載っていないということか。

<所長> そのとおり。

<委員> 同じような講座がずっと続いているというお話があったが、続けることの難しさもある。どの段階で止めるか、継続するかの判断も難しいと思う。満足度調査

などを基準に判断されているのかと思うが、不満足という回答が何件もあり、それがどういう意見なのか気になる。

日本の伝統芸能、私がやっている話芸というのは一方的な発表会になっていると感じる。こういうのは満足度が低い。区民の方も、自分も何かやってみたいという気持ちがあると思う。私も謡曲に出たが、やってみるとそれなりに面白い。聞いているだけだと眠くなってしまふ。三味線とかそういう参加型の教室であるとか、自分が行動し参加していると満足度が高いと思う。

ただ発表を聞いているだけの事業は満足度が低いと今回の資料をみていると感じる。工夫して参加型にしていくことが必要かなと思う。

<所長> 不満足の意見だが、今後分析する必要があるが、委員のご意見のとおり、満足度が低かった事業は参加型でなかったのが一つの要因かな、と推測している。

<委員> 施設利用率が右肩下がりであるとのこと。しかし、利用者の立場から考えると、抽選の倍率がかなり高くなっているのか、以前は希望どおり部屋が取れていたが、最近では希望どおりに取れない。毎年、会員募集のための講習会を行う区報掲載を行っている。しかし、希望どおりに部屋が取れないと、区報掲載のタイミングが合わなくなって困っている。今まで16、17年サークル活動をやってきたが、このようなことはなかった。1年間均すと右肩下がりとのことだが、時間・曜日別の利用率の分析があれば教えて欲しい。

<所長> 以前は曜日別の資料を付けていたが、今年度から施設の稼働率については、平日と土日祝日に分け、午前・午後・夜間の利用率について分析を始めている。これを見ると、平日の午前・午後の教室の利用率が非常に高い状況にある。例えば4月の午後の第1教室などは利用率100%である。

ただ、平日の夜間となると利用率がガクンと下がる。4月平日の全教室の稼働率は、午前は54%、午後は72%、夜間は30%という状況になっている。休日も午前・午後が高く、夜間が下がっている状況にある。夜間については、利用率の低い調理実習室、保育室も含めて算出している。これが、利用率を下げる要因になっているところはある。

私も今年度からの統計を見て、皆さんが教室の利用率が高いとおっしゃる状況がわかった。

<委員> 部屋の利用率だが、第1教室、第2教室、第3教室については、平成20年、21年においても高い状態だったと記憶している。特定の団体が使う調理実習室については、利用が少なく、また、夜間の時間帯の利用が少なかったのも憶えている。

今回の報告を聞きながら、利用の少ない時間帯を使って講座を企画をして、苦労されているのが分かった。

以前、学びの循環という生涯学習の計画があった。これは、講座に参加して「知りたい」という要求を満たし、学んだことによってもっと勉強して「深めたい」、さらに学んだことを「活かしたい」という計画だった。これを基にいろいろな講座を行ってきたという経緯がある。

講座終了後、引き続き勉強したいという方には、活動している団体を紹介していた。石泉地区からも生涯学習センターの講座に参加される方もいるので、石神井、大泉地区で活動している生涯学習団体を紹介し、繋げていく支援もしてきた。これからも学び続ける方への支援を頑張っていたらと思う。

<委員> 先ほど来、部屋の確保の問題があがっている。私の団体は和室（大）と和室（小）を通して利用している。資料では、和室（大）の利用率が68.9%、和室（小）が54.3%という数字になっている。月に4回活動しているが、抽選で希望通り取れるのが大体月1回ぐらいしかない。そのため本拠地は生涯学習センターとしているが、他の地区区民館等も利用しており、部屋の確保に大変苦労している状況にある。資料の統計数値を見るとそれほど高くないので違和感がる。

<所長> 4月の和室（大）の午後の利用率は100%。午前と夜間を含めて均した数値が約70%。午後の時間帯を希望される団体が多い状況にあると考えている。

<委員> 委員の皆さんが運営懇談会の場で意見を出されて討議することは、とても良いことだと思う。年2回の会議なのでできるだけ出席していただき、一言ずつでも話すことで、生涯学習センターの職員に参考になることもあると思う。ぜひ、欠席しないで、練馬区のために、生涯学習センターのために良い意見を出し合い、一緒に頑張っていきたい。

<委員> 伝統文化についての話の中で、ただ発表を聞くのではなく、一人ずつが参加することが発展や喜びに繋がるという話があり共感した。文化庁の仕事で全国を回っているが、区に伝統文化係というのがあり、その枠の中でいろいろな団体が努力して活動されていると聞き、私の団体も伝統文化の枠の中で指導できるなら活動していきたいと感じた。

<座長> 部屋の確保についていろいろご意見が出た。これだけ多様化している状況の中で、すべての団体が希望する曜日・時間帯を取るのは無理な状況にある。自分たちの団体がこの状況の中でどう動くかということを考えて欲しい。自分の団体では、

空いているところに予約を入れている。

また、1時間単位の貸出の経緯だが、午前・午後・夜間の枠の間が空いているなら、たくさんの団体が借りたいがあるので、貸出しましょう、という皆さんのご意見から作られた。希望する月4回の内1~2回しか取れない場合は、各地域に地区区民館や地域集会所等の施設がある。夜間の部は空いているところはかなりある。団体の中で話し合っ、夜間の場合もあるという方向で続けていかないと、これからは活動そのものが難しくなると思う。

今後参加型にしていくとなると、さらに団体の活動が活発になる。ただ部屋が取れないという意見だけではなく、今後どうしていったらいいのかという前向きな意見も欲しい。この運営懇談会は委員の皆さんがよく考えて、生涯学習センターのより良い運営を考えていく会だと思っている。課長からのご意見を頂戴したいと思う。

<課長> 皆様からさまざまなご意見を頂戴した。区立の施設である地区区民館、地域集会所、最近ではココネリが整備された。以前とは比較にならないほど借りられる教室の数は増えている。しかし、人口の増加、65歳以上の高齢者人口が増える中、追いつかない状況にある。

さらに高齢化による扶助費などの負担増、学校等の建替え時期に伴う施設整備の費用なども増加している。政策に関わる部分に回せるお金を確保し、このような状況下でも施設を有効に利用できるような工夫として、時間貸しという方式に切り替えた。

今後、システムの中で空いている施設の状況が一覧で確認できるようになる。座長にも話していただいたが、利点としては、例えば、生涯学習センターは予約が入っているが、ココネリは空いているということが確認できるようになる。施設をシェアしていただきながら、工夫して使っていただきたいと思う。

鍵の受け渡しも便宜上早く渡すなどのサービスができていた部分もあるが、他の施設でも同様の意見を頂戴している。枠間も利用料金を徴収する時間帯となったこともあり、どの施設でも貸出時間を厳密に対応することとしている。ご理解いただきたい。

もう一点、今後の方向性ということで「これからの生涯学習センターについて」という資料をお配りしている。高齢化が進む中で、生涯学習として皆さんが活発に活動する団体になっていただきたい、ということである。後ほど話しをさせていただきたいと思う。

<副座長> 今回の1年間の実績を見て嬉しいことが二つあった。一つは事業の数が増えている点。もう一つは、施設の利用率は下がっているが、利用人数が増えている点。生涯学習センターで何が必要かと言うと、練馬区民の方に何かキッカケを与え

ることだと思う。利用人数が増えるということはその一つの指標だと思う。

この2~3年は利用人数が増えている。ただ教室の利用率は下がっている。そこは考えなければいけないと思う。数年前、教室の利用率は平均で65%を超えていた。昨年度は平均57.5%でそのギャップはわれわれが考えていかなければいけないと思う。

もう一つは夜間が空いているということで、主催事業を生涯学習センターに依存するのではなく、われわれも一緒になってアイデアを出していく、伝統文化係の主催で会場が一杯になるという話があったが、ノウハウをお互いに共有していくことが必要だと思う。

サークルの高齢化などで夜間の利用率が上がらないならば、主催事業で教室をうまく活用していけるように、われわれがどんどん発案していけるよう場を設けていけたら良いと思う。増えている利用者の方をいかに満たされるようにするか、逃がさないようにするかも考えていく、講座の中で、講座終了後にサークルとして活動できるというアドバイス、サークル活動が継続するためには何をやったら良いのかというアドバイス、それぞれの講座の中で工夫することがあっても良いと思う。そのためにはアンケートを基に判断していくことも必要だと思うし、委員の方の経験や情報をシェアしていくことも大事だと思う。

<委員> 高齢者にとっては、夜間の利用が難しいこともある。

<副座長> 高齢者の夜間利用は無理な面もあると思う。若い人が参加できる講座を、福祉や防災等と連携していくことも一つの方法だと思う。確かに高齢化という問題があり一つの大きなバリアーになるが、若い方もたくさんいるので、若い方をいかに引き込むかを考えていくことも必要だと思う。

<座長> このあと「これからの生涯学習センターについて」ということで所長が話されるので、さまざまな意見や考えを持たれると思う。みんなで考えて良い方向に進めていきたい。

(6) その他

これからの生涯学習センターについて
所長より参考資料に基づき説明

<座長> この運営懇談会は、「これからの生涯学習センターについて」に記載された施設のことも含めて話し合っ進めていくということか。

<所長> 生涯学習施設の一体的活用についてお話をさせていただきました。生涯学習センターの分館、向山庭園を加えた体制になる。向山庭園については指定管理ということもあり調整は必要になるが、3館体制になる。今後この懇談会では生涯学習センター分館と向山庭園も含めてご意見を頂戴していただくことになると思う。

<座長> 向山庭園、分館と生涯学習センターを繋げる場として、検討したり話し合っていく場になるということか。

<所長> 来年度からそのようなことができる形にしていきたいと考えている。まだ案という段階ではあるが、計画に沿ってご意見をいただく場になっていけばと思っている。

<座長> 今この懇談会では施設の使い方等が重点になっているが、今後生涯学習のあり方そのものを話し合っていくということか。ここだけではなく区の文化・生涯学習課と一緒に話しかう場になっていくのか、われわれは、区で決定されて下りてきた案件をその方向で話しかう場になるのか、その辺がわからない。

<課長> 練馬公民館時代から発信してきた地域の課題については、それぞれ解決していくセクションができた。図書館、地区区民館等いろんな所でいろいろな講座を実施している。先ほどお話のあった伝統文化についてもここから発生している。その中で「生涯学習の役割は一体何だろう」ということを考えなければならない。この点を整理しながら、来年度に向けて事業の再編を進めていきたいと考えている。これを事前にお伝えしたいということである。来年度からは本庁舎で行っている生涯学習事業の団体登録事務、出前講座などすべて生涯学習センターを拠点として行っていくこととしている。ここ生涯学習センターの事業として、皆さんにお諮りしながら引き続き懇談会でご意見をいただきたいと考えている。

<座長> 以前の運営審議会から運営懇談会に変わり、会議の回数も年3回から年2回になっている。年2回だと会議の間隔が長すぎて、もっと早めに話し合った方が良いというケースも有った。また、懇談会という名称のため皆さんが以前より軽く思っているとしたら違うと思う。

本庁からセンターに移る事業も含めて話し合う等、責任の重い会議だと思っている。皆さんもそうだと思うが、分館で行われているEnカレッジについて話し合うにしても、事業がどう行われているかについてよくわかっていない。これからはそのことも含めて話し合うことが多くなると、年2回では少し厳しいと思う。区で決まったことが下りてきてその報告を受けるだけでなく、共に考えよう、学ぼう、広

げていこうということなら回数は1回程増やして欲しい。もう少しじっくりと委員の方やセンターの職員の方と話し合いを進めていかないと練馬区の生涯学習の拠点であるとは言えないと思う。

<課長> 以前は練馬公民館運営審議会として進めていた。これは社会教育法という法律で定められたもので、選出委員は条例で定められていた。教育委員会部局から区長部局に移り、生涯学習センターとして衣替え、社会教育法から外れた会議体になっている。そして運営懇談会という形に切り替えさせていただいた。ここで議論していただくことについては、事業や運営に今までも反映させていただいている。今後議論していただく分野が広がり重くなる方向にあるというご報告をさせていただいたが、回数は委員の皆さんのご都合もある。検討させていただきたい。

今日お話しさせていただきたい事業として、一つは人材育成事業のEnカレッジである。もう一つは団体支援事業である。団体支援事業は寿大学を改変して(仮称)輝け大人倶楽部とすることを考えている。サークルが高齢化し会員が減ると、活動したい人の受け皿がなくなってしまう。やる気があって会員を集めたいという団体は、この事業に参加していただき、区民の方を指導して欲しいと思っている。今まで会員募集はしないという方針の時もあったが、会員募集講座に切り替えて、出会いの場にしていきたいと考えている。これは運営懇談会委員の皆さんの団体にもやって頂けると考えている。この懇談会ではその役割を担っていくことについて意見等を出して考えていってもらいたいと思う。

また、情報発信の機能を充実していくことを考えている。これらについて、これから進めていきたいということで事前にお話しをした。

<座長> これからのことなので、次回までに頭の中を整理していただきたいと思う。

法律で縛られることなく、この運営懇談会で出た意見が地域に広がっていることは事実であるし、今後も多くなっていくと思う。人材育成については、文化団体協議会にもたくさんの先生がいらっしゃる。区民である先生方を活用していただけたら有り難いと思う。

<所長> 本日長い時間にわたり検討いただき、またご意見いただき感謝する。今後ともよろしく願います。

<座長> 最後に副座長にしめていただきたい。

<副座長> 今後われわれに期待される役割が、広がっていくかもしれない。そのことを念頭に置きながら、次回活発なご意見を出していただけるようお願いする。